

群馬県を中心に収集運搬業を営むアドバンティクス・レヒューズ（前橋市、堀切勇真社長、☎027・268・0055）は、ドライバー不足が叫ばれる中、給与や福利厚生などの充実により、ドライバーを含めた人材確保が順調だ。

同社は、20年前に全国で初となる男性社員でも利用可能な老人介護休暇制度を設けたほか、子育て支援のため短時間社員制度（6時間）を導入している。また、年3回の賞与の他に、月次業績によって社員に対し大入り袋、大入り袋などに

群馬県を中心に収集運搬業を営むアドバンティクス・レヒューズ（前橋市、堀切勇真社長、☎027・268・0055）は、ドライバー不足が叫ばれる中、給与や福利厚生などの充実により、ドライバーを含めた人材確保が順調だ。

同社は、20年前に全国で初となる男性社員でも利用可能な老人介護休暇制度を設けたほか、子育て支援のため短時間社員制度（6時間）を導入している。また、年3回の賞与の他に、月次業績によって社員に対し大入り袋、大入り袋などに

度たと言われている。「会社は何のために存在しているのか、私の答えは社員とその家族の幸福のため、となります」と堀切社長は話す。こういった姿勢に、入社希望者は現在

が支給される。企業利益がどれだけ社員に還元されているかを計る基準の1つである労働分配率は、同社では約60%だ。通常優良と言われる企業でも40%程度

アドバンティクス・レヒューズ

共存共栄の実現

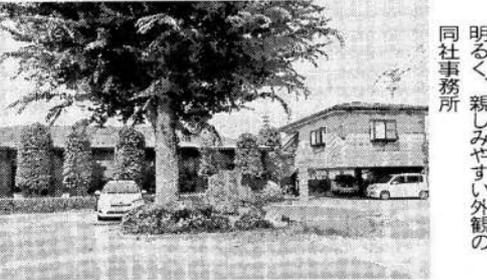
「社員のための会社」、人材確保も順調

ともなければ、顧客への過度な値上げ、社員への還元を減らすこと取ることなく、顧客のタイミンクで仕事を進めることができず、それは営業姿勢にも現れており、同社では営業担当者

も「待ち」の状況が続いているという。堀切社長によれば、「ノルマを持たせている。また同社のビジネスにおける基本的な考え方は「共存共栄」だ。中間処理業者に執拗なコストダウンを迫ること

も「待ち」の状況が続いている。堀切社長によれば、「ノルマを持たせている。また同社のビジネスにおける基本的な考え方は「共存共栄」だ。中間処理業者に執拗なコストダウンを迫ること

の収集運搬の許可を有しており、大手排出企業の廃棄物を一手に引き受けることが可能。またデジタルタコクラの導入やエコドライブの徹底についても早



明るく、親しみやすい外観の同社事務所

期から取り組んでいる。2000年には年間およそ10億円だった売上高は、現在およそ15億円となっている。こういった企業活動が認められ、「優良産廃処理業者」「産廃エキスパート」認証にとどまらず、今年1月には群馬県優

良企業表彰の優秀賞が授与された。堀切社長は「今後も共存共栄を根幹に置いて、永続企業を創っていきたい」と話している。